

リスク・レジリエンス工学学位プログラム (博士前期課程)
Master's Program in Risk and Resilience Engineering

授与する学位の名称	修士(工学) [Master of Engineering]	
人材養成目的	不安定化する昨今の社会情勢の中で、適切なリスクマネジメントに基づく「強さ」と「しなやかさ」を兼ね備えた安心・安全な国土と地域・経済・情報社会、すなわちレジリエントな社会システムの実現は最も重要な課題である。本学位プログラムでは、「工学的視点から、不測の事態や状況の変化に柔軟に対応し、求められる機能を維持提供し続け、回復する能力」、すなわち、リスクを工学的方法により分析・評価した結果をレジリエンス社会の実現のために活用できる高度な技術をもち、現実社会の問題を見据えて教育研究成果等を社会還元できる高度専門職業人の養成を目的とする。	
養成する人材像	工学基礎力をベースにリスク・レジリエンス解析・評価のための基礎理論および関連情報処理技術を修得し、それを広い視野でリスク・レジリエンス工学の対象である現実の問題に対応させ、十分なコミュニケーション能力で研究チームや研究プロジェクトの中で与えられた役割分担を果たし、必要に応じてリーダーシップをとりつつ、工学的手段による問題設定から解決までの具体的方法を考案・開発することができる人材	
修了後の進路	情報通信業・運輸業・エネルギー産業・製造業・建設業・金融業・保険業・コンサルタント業・その他サービス業、大学教職員、国・民間の研究所、国家公務員、地方公務員など	
ディプロマ・ポリシーに掲げる知識・能力	評価の観点	対応する主な学修
1. 知の活用力: 高度な知識を社会に役立てる能力	① 研究等を通じて知を社会に役立てた(または役立てようとしている)か ② 幅広い知識に基づいて、専門分野以外でも問題を発見することができるか	学位プログラム提供科目, 大学院共通専門基盤科目, 特別研究, 特別演習, 特定課題研究, 特別講義, インターンシップ, グループ PBL 演習, 輪講, 修士論文作成(特定課題研究報告書作成), 学会発表など
2. マネジメント能力: 広い視野に立ち課題に的確に対応する能力	① 大きな課題に対して計画的に対応することができるか ② 複数の視点から問題を捉え、解決する能力はあるか	特別研究, 特別演習, 特定課題研究, インターンシップ, グループ PBL 演習, 達成度自己点検など
3. コミュニケーション能力: 専門知識を的確に分かり易く伝える能力	① 研究等を円滑に実施するために必要なコミュニケーションを十分に行うことができるか ② 研究内容や専門知識について、その分野だけでなく異分野の人にも的確かつわかりやすく説明することができるか	特別研究, 特別演習, 特定課題研究, インターンシップ, グループ PBL 演習, 学会発表, ポスター発表など
4. チームワーク力: チームとして協働し積極的に目標の達成に寄与する能力	① チームとして協働し積極的に課題に取り組んだ経験はあるか ② 自分の研究以外のプロジェクト等の推進に何らかの貢献をしたか	特別演習, グループ PBL 演習, TA 経験, 学会・セミナーでの質疑応答など
5. 国際性: 国際社会に貢献する意識	① 国際社会への貢献や国際的な活動に対する意識があるか ② 国際的な情報収集や行動に必要な語学力を有するか	大学院共通科目(国際性養成科目群), 研究群共通科目, 特別研究, 特別演習, 特定課題研究, 国外での活動経験, 外国人との共同研究, 留学生との交流, TOEIC 得点, 国際会議発表, 英語論文など
6. 工学基礎力: 工学分野の高度専門職業人にふさわしい基礎知識と学力	① リスク・レジリエンス工学分野の基礎知識を有しているか ② リスク・レジリエンス工学分野の高度専門職業人としての学力を備えているか	学位プログラム提供科目, 大学院共通専門基盤科目, 特別研究, 特別演習, 特定課題研究, 修士論文作成(特定課題研究報告書作成)
7. 基礎理論・関連技術に関する知識: リスク・レジリエンス解析・評価のための基礎理論の知識並びにリスク・レジリエンス解析・評価に関連する情報処理技術の知識	① 複雑な現象に内在するリスクを解析し, レジリエンスの観点から評価するための基礎理論を修得しているか ② 複雑な現象に内在するリスクを解析し, レジリエンスの観点から評価するための情報処理技術を修得しているか	学位プログラム提供科目, 研究群共通科目, 特別研究, 特定課題研究, 修士論文作成(特定課題研究報告書作成)
8. 現実問題に関する知識: リスク・レジリエンス工学が対象とする現実の問題に係る知識	リスク・レジリエンス工学が対象とする現実の問題に関する知識を有しているか	学位プログラム提供科目, 特別研究, 特定課題研究, 学会・国際会議・セミナー参加, 調査等
9. 広い視野と俯瞰力: リスク・レジリエンス工学の対象を広い視野で捉える能力	リスク・レジリエンス工学の対象を捉えるための広い視野を有しているか	協働大学院教員提供科目, 研究群共通科目, 特別講義, インターンシップ, グループ PBL 演習, 学会・国際会議・セミナー参加, 調査等

10. 問題設定・解決能力:リスク・レジリエンスにかかわる問題について、問題設定から工学的手段による解決までのプロセスを理解し、具体的解決手段を考案・開発する能力	① 専門的応用能力である問題設定から解決までのプロセスを理解し、具体的解決に導くことができるか ② 研究者倫理および技術者倫理について十分に理解し遵守しているか	特別研究, 特定課題研究, インターンシップ, グループ PBL 演習, INFOSS 情報倫理, APRIN, TA 経験など
11. グローバル・コミュニケーション能力:研究チームや研究プロジェクトの中で、与えられた役割分担を果たし、十分なコミュニケーション能力を発揮し、かつ必要に応じてリーダーシップをとる能力	① 研究チームや研究プロジェクトの中で、与えられた役割分担を果たすことができるか ② 研究チームや研究プロジェクトの中で、十分なコミュニケーション能力を発揮し、かつ必要に応じてリーダーシップをとることができるか	特別研究, 特別演習, 特定課題研究, インターンシップ, グループ PBL 演習, 学会・国際会議等での発表・質疑応答, 共同研究

学位論文に係る評価の基準

以下の評価項目すべてが満たされていると認められるものを合格とする。なお、特定の課題についての研究成果(「特定課題研究報告書」という。)の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

<学位論文の審査に係る基準>

1. 学位申請者が研究倫理に則り、主体的に取り組んだ研究成果であること。
2. 研究内容が新規性、または有用性を有していること。
3. 論文の構成が適切であり、内容が正しいこと。
 - (1) 論文題目が適切であること。
 - (2) 研究の背景・目的が明確であること。
 - (3) 研究の方法が目的に合致していること。
 - (4) 結果が正しく導出されていること。
 - (5) 考察が結果に基づいて検討されていること。
 - (6) 結論が明確であること。
 - (7) 引用が適切であること。

<特定課題研究報告書の審査に係る基準>

1. 学位申請者が研究倫理に則り、主体的に取り組んだ研究成果であること。
2. 研究内容が新規性、または有用性を有していること。
3. 研究報告書の構成が適切であり、内容が正しいこと。
 - (1) 報告書の題目が適切であること。
 - (2) 研究の背景・目的が明確であること。
 - (3) 研究の方法が目的に合致していること。
 - (4) 結果が正しく導出されていること。
 - (5) 考察が結果に基づいて検討されていること。
 - (6) 結論が明確であること。
 - (7) 引用が適切であること。

<最終試験に係る基準>

学位論文についての説明、関連事項に係る質疑応答の結果と達成度評価の結果に基づく。

<学位論文が満たすべき水準、審査委員の体制、審査方法及び項目等>

学位論文の審査は、主査1名、副査2名以上の修士論文審査委員会を設置し、審査委員会の合議で行う。主査並びに副査2名以上はシステム情報工学研究群担当教員とする。

主査は、修士論文審査委員会を開催し、学位論文の審査に係る基準に従い論文を審査し、合議の上合否を決定する。上記 1.～3.の評価項目すべてについて、学位論文(修士)としての水準に達していると認められるものを、最終試験を経た上で合格とする。

カリキュラム・ポリシー

上記に挙げた学位授与の方針(ディプロマポリシー)が達成され、リスク・レジリエンス工学(リスク・レジリエンス基盤、情報システム・セキュリティ、都市防災・社会レジリエンス、環境・エネルギーシステム)に関する専門知識と研究能力、工学分野の幅広い基礎知識と倫理観を備えるとともに、理工情報生命の中の複数分野にわたる広い視野に立って複雑な社会現象に潜むリスクを包括的に解析する即戦力をもつ人材を育成するカリキュラムを編成する。

教育課程の編成方針

博士前期課程では、研究群共通科目群に専門科目と専門基礎科目を、学位プログラム科目群に専門科目と専門基礎科目を編成する。学位プログラム科目群においては、プレゼンテーション・コミュニケーション能力や広い視野を養成する講義と演習、さらに問題設定から工学的手段による解決までのプロセスを理解し解決手段を開発するプロジェクト科目を履修する。研究群共通科目科目群では、各々の分野における基礎理論や情報処理技術を学び、リスクに関わる現実の問題についての知識を深めるための科目を履修する。学位プログラム科目群においては、各自の専門分野とは異なる分野について理解を深めることができるようにする。これらの学修と専門分野における研究を学位論文または特定課題研究報告書にまとめることによって、ディプロマ・ポリシーに挙げた各項目を達成できるようにする。

<p>学修の方法 ・プロセス</p>	<p>ディプロマ・ポリシーに掲げた各項目を以下により達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「工学基礎力」はほとんど全ての科目に共通しており、学位プログラムで用意した科目を履修することにより修得する。加えて、学術院共通専門基盤科目により、より幅の広い学修が可能となる。 2. 「基礎理論・関連技術」はほとんど全ての科目に共通しており、学位プログラムで用意した科目を履修することにより修得する。特に修士特別研究により、複雑な現象に内在するリスクを解析しレジリエンスの観点から評価するための基礎理論および情報処理技術のより深い修得が可能となる。 3. 「現実問題」はほとんど全ての科目に共通しており、特に専門科目を履修することにより修得する。 4. 「広い視野」に係る能力はほとんど全ての科目に共通しており、特に企業・研究所等の協働大学院方式に係る教員による科目によって修得する。また、それらの教員によるインターンシップ関連の科目により、より深い修得が可能となる。 5. 「問題設定・解決」に係る能力は、指導教員のもとで自らの研究を遂行する修士特別研究、企業・研究所等の協働大学院方式に係る教員によるインターンシップ関連の科目によって修得する。 6. 「コミュニケーション」に係る能力は、修士特別演習や修士特別研究、修士特定課題研究で修得する。加えて、学生をグループ単位に分け、1つのテーマに取り組ませるリスク・レジリエンス工学グループPBL演習等により、より深い修得が可能となる。 <p>各項目の達成状況は、次に記述する達成度評価によって定期的にチェックし、到達度に応じて、当該学生の達成度評価委員を務める教員が適切な助言を与える。</p>
<p>学修成果の 評価</p>	<p>次に述べる達成度評価システムによって、教育の質保証を行う。 達成度評価項目として、以下の6項目について達成度評価を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 工学基礎力：工学分野の高度専門職業人にふさわしい基礎知識と学力を備えているか。 ② 基礎理論・関連技術に関する知識：リスク・レジリエンス解析・評価のための基礎理論の知識並びにリスク・レジリエンス解析・評価に関連する情報処理技術の知識を備えているか。 ③ 現実問題に関する知識：リスク・レジリエンス工学が対象とする現実の問題に係る知識を備えているか。 ④ 広い視野と俯瞰力：リスク・レジリエンス工学の対象を広い視野で捉える能力を有しているか。 ⑤ 問題設定・解決能力：リスク・レジリエンスにかかわる問題について、問題設定から工学的手段による解決までのプロセスを理解し、具体的解決手段を考案・開発する能力を有しているか。 ⑥ グローバル・コミュニケーション能力：研究チームや研究プロジェクトの中で、与えられた役割分担を果たし、十分なコミュニケーション能力を発揮し、かつ必要に応じてリーダーシップをとる能力を有しているか。 <p>達成度評価は、毎年度2回実施される達成度評価委員会において、各学生が3名以上の教員と面談し、評価を受けることによる。評価結果は学生にフィードバックされ、その後の学修改善に利用する。最終回の達成度評価において、すべての項目について修士（工学）の学位にふさわしいと判定された場合に、最終試験に合格したと見なす。また、達成度評価における基準として、各科目において上記6項目に対するポイント配分を定める。修了までに各評価項目について規程の合計ポイント以上のポイントを取得することを必要とする。</p> <p>また、この達成度評価システムについては、次のようなPDCAサイクルによって常に改善を図る。</p> <p>Plan: 達成度評価システムを企画し、実施内容・基準等を策定する。 Do: 個別の学生ごとに複数の教員によって達成度評価を実行する。 Check: 達成度評価システムの内容と実際の運用状況を点検する。 Act: 発見されたシステム・運用上の課題の改善を図る。</p>
<p>アドミッション・ポリシー</p>	
<p>求める人材</p>	<p>広い範囲のリスクに関する理解と対策に関心をもち、学際的立場からリスク・レジリエンスに関わる現実の問題について、分野横断的な俯瞰力をもってその解明と評価に取り組もうとする人材を求める。本学位プログラムで学ぶにあたって、特定分野の知識は必須ではないが、基礎としての数学や情報処理技術に関心をもち、一方で、実社会で活躍するためのコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力、さらに産学連携や社会連携、教育研究成果等の社会還元について向上心をもつ人を歓迎する。</p>
<p>入学者選抜 方針</p>	<p>入学者の選抜にあたっては、推薦入試、一般入試、社会人特別選抜などの入学者選抜方式によって多様な入学志願者に対応するとともに、募集人員を分割し同一年度内に複数回の入学試験を実施する。入学者は口述試験、さらに、分野の特性に応じて、出願資格を満たす成績証明書を利用して選抜するものとし、外国語については、英語能力検定試験（TOEIC、TOEFL等）のスコアの提出によって実施するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推薦入試では、成績が特に優秀でリスク・レジリエンス工学分野における十分な知識と研究能力を有する者を選抜する。 ・一般入試では、一定の基礎力及び研究能力を備えた人材を選抜する。 ・社会人特別選抜では、基礎力及び研究能力に加え、社会人としての実績や経歴を評価する。